

音楽会常務

角田 望

音楽会の常務は、教師などの「常務教師会議」で仕事を確定し、「常務リーダー会議」で流れをつくり、「常務全体会議」でそれぞれの係りが動くというものであった。裏方の運営は生徒にとってよい学びの場であった。

常務は裏方である。ただし光の当たるステージでの演奏も、裏でマネジメントし、サポートする裏方がなければ成立しない。ステージに立つ生徒をどのように支えるか、ということが常務の仕事であり、運営という面では学園らしい学びの場でもあった。

1 常務教師会議

生徒の常務が動き出すまで学園全体としての体制づくりが行われていた。理事長、学園長が中心となり、武田先生を「総責任」として「常務」（最高学部は奈良先生、女子部が稲原先生、男子部は角田、初等部は横山先生）が任命されたのは4月14日のことであった。

その後、5月には「常務教師会議」が立ち上げられた。そこでは全体の会議の流れや「展示」の取り組みなどが相談された。この「教師会議」の機能は会計の全体を掌握し、チケット、プログラムの確認、当日の弁当の発注など、外部や全体の流れを教師陣として決定することであった。8月まで4回行い、生徒の動きを規定する役割を果たした。チケット、プログラムのデザインは、女子部の美術で作成したものであった。

2 常務リーダー会議

生徒の常務リーダーが決まったのは1学期であったが、リーダー会議として顔合わせができたのは9月12日であった。学部は柴谷・藤野、男子部は中田・馬場、女子部が黒澤・杉原が選出されて本格的に動き始めることになった。9月25日の2回目の会議では、各部で話し合った「生徒の目標」を出し合い、ひとつにまとめるための協議がおこなわれた。「姿で伝える」で一致した目標は、

合同礼拝で発表された。この会議は、教師と生徒の常務責任者が、中枢として音楽会の流れを確認し、係りの現状や課題を明確にするものであった。その点では生徒全体の流れを決める役割を担っていた。

今回特筆すべきは、学部リーダーが「音楽会のしおり」を作成し、直前に生徒全員に配布したことである。音楽教師やリーダーからのメッセージ、生徒の当日の行動ばかりでなく、プログラムや会場図、服装の注意から劇場案内図まで載っており配慮の行き届いた冊子であった。このような自主的な影の支えによって生徒達がステージに送り出されることになったのである。

3 常務全体会議

常務全体会議は4回開かれた。第1回の10月15日には各部の係りである生徒、教師が学部食堂に集い、仕事内容を確認し課題と予定を確認することになった。第2回は24日に行い、仕事の進行を確認し、現場でどのようなことを確認するかを話し合った。芸術劇場の下見は11月5日、それを受けて第3回の全体会議は14日に開催したので、この期間はかなり密度濃く常務が動いていた。そのなかで楽器の搬入、生徒の交通から控え室の確認、リハーサルの場所と移動の段取り、食事の配布・回収の問題など細部にいたるまでの具体的な解決策がひとつずつ決められることになった。

なかでも大変だったのは「ステージ進行」と「椅子並べ」であった。ステージは秒単位で動いており、進行が細かく指示を出し生徒の動きを確認することになった。その他の係りもその指示に従ってタイミングを合わせなければならなかった。ま

た、ステージの椅子や譜面台を短時間で適切にセッティングする「椅子並べ」は、中等科2年生がクラスとして担当する仕事であった。みんなが全体の動きを理解して適切に動き、最後の確認までできないと進行に支障を生じる。この責任は、4年前に当時の2年生として苦勞した6年生がじっくりと指導してくれた。実際には、授業を振り替えての練習も行われた。2年生は他の学年とは異なり、休憩も十分に取れずに緊張した時間を過ごすことになったが、まさにステージを支える役割であり、達成感も大きかったようである。

4 本番での取り組み

合同礼拝の後、「音楽会報告会」をしたのが21日。リハーサルは25日に記念講堂で行われた。その上で27日の本番を迎えたのである。

常務リーダーの課題は、そのように常務がそれぞれ動いていたとしても「調整」という形で残されていた。「音楽会のスケジュール表」は、「ここでリハーサルできないと困る」という音楽教師の強引なまでの熱意によって、最後の最後まで改訂されることになった。最終的には第6版に手書きで修正を加えることで収束したが、階段やエレベーターの調整は「移動の確認表」を作成しなくてはならなかった。

第4回の常務全体会は、12月1日に反省会として行われた。それぞれに反省と課題が語られたが、常務の生徒はそれぞれの仕事において達成感を得たと思われる。そしてその仕事に支えられて音楽会が成功したのである。

常務最後の仕事は、その音楽会DVDを父母に郵送、手渡しすることであった。DVDは、4年前に在庫を多く残す結果となったことから、当初は作成しない方針であった。しかし父母からの要望が強かったので、極力正確な注文数を出すことで作成が決められた。注文数の決断には苦慮したが、最終的に音楽会終了後の追加注文にも対応しつつ、ほぼ配り切ることができた。演奏がすばらしかったことが何よりであったが、DVD制作会社が丁寧に作品化してくださり、常務としても嬉しい締め括りとなった。